

岡山県立倉敷まきび支援学校 第2回 学校運営協議会 議事録

開催日：令和4年11月15日(火)
会場：大会議室・会議室1

開会あいさつ（梶谷校長）

第2回の運営協議会にお集まりいただき、ありがとうございます。
前半期の取組の中で、地域とのつながりを強く感じた。
今日は、今後に向けて、各グループでしっかりと協議を行ってもらいたい。

学校の取組について

小学部（中園教頭）

地域での活動として「コンビニやパンポルトでの買い物学習」「まびファームでの動物とのふれあい」「鉄道を利用した校外学習」等を行っている。こうした活動の中で、「公共の場でのルールやマナー」について学習を行っている。また、児童から積極的にあいさつを行うようにすることで「地域に元気や笑顔を届ける」ということをモットーにしている。

中学部（廣畑教頭）

中学部では「自分達のことでなく、社会に目を向けられるよう」に学習を行っている。
「地域調べ」「環境学習 / SDGs」「米作り」等、地域を活かした学習に取り組んでいる。
また、今年度よりマレットゴルフや総踊りの学習が始まった。地域の方にレクチャーしていただき、生徒も積極的に学習できている。
なお、西日本豪雨災害の追悼式に、毎年参加している。継続して取り組んでいく予定。
今後も、コミュニティスクールの強みを生かし「地域と共にある学校」でありたいと願っている。

高等部（山乗教頭）

高等部では、卒業後の生活を見据え、実践的な学習が中心となっている。
職業コースでは「地域型実習」という形で、地域の施設や商店に協力をいただいているが、今年度より生活コースでの地域型実習をスタートさせる予定にしている。
また、「産業現場等での実習」でも様々な協力をいただき、ありがたく思っている。
生徒達を「地域の担い手」として、しっかりと育てていきたい。

肢体不自由部門（江口教頭）

健康に対して配慮が必要な児童生徒が多いものの、買い物学習として地域のスーパーに買い物に行くことができた。また、くらしき作陽大学との連携も行っており、校外学習で大学へ行って学生との交流を行った。大学教授に指導についての助言をいただいたりしている。
今後も、「自立と社会参加」を目指して、学校内での日々の学習の成果を地域で発揮できるようにしていきたい。

小野副校長

TEORIに就職した卒業生の紹介。現在、とてもいい笑顔で仕事を行うことができている。
学校で学んだことを、実社会で生かすことができている好事例ではないか。

質疑応答

質問事項なし

グループ協議

就労班

事業所参観日についての報告を行い、課題について話し合った。アンケートの中に「生徒が自分達の作業の内容について、自分達で説明できる機会があればよかった」という意見があり、今後取り入れて行きたいと感じている。

また、「若い人の離職率の高さ」についての話題になった。

これは、「自分は何のために仕事をしているのか」「自分の仕事は何につながっていくのか」が明確になっていないのではないか、という結論に至った。「学校において、“働く”ということを教えていない」という課題が浮き彫りになり、教師の側が高い進路意識をもって、日々の指導に当たる必要があると感じた。

環境・安全班

高等部生徒会が「あいさつ運動」に取り組んでいる。ただ、行事等の兼ね合いもあり、十分にできていない面もある。民生委員や「まちづくり協議会」と一緒に取り組むことができる第3月曜日に、学校も参加する方向で検討を進めたい。

また、学校近くの横断歩道のラインや吉備真備駅の駐輪場の印が薄れているため、担当窓口に対してお願いをしていきたい。

福祉班

卒業後の生活に対して不安をもっている保護者が多いことが分かった。これは「生活スキルを上げていくこと」だけでなく「福祉等のサポート体勢についての情報をあまりもっていない」ことが原因となっている。学校だけではフォローしきれない部分が多いため、地域からの協力が得られていてとても助かっている。

教育班

交流・共同学習ができていないため、しっかりと計画を行い実施に向けて動いていきたい。

まずは、小学部児童が箭田小の校庭に遊びに行くところからスタートさせていく予定。

まとめ（着席順）

委員 A

学校間交流ができていないことが課題だと思う。コロナ等の課題もあるが、工夫して進めていってもらいたい。

委員 B

地域による、児童生徒の見守りに感謝している。

細かいところへの気配りをいただいていて、とてもありがたい。

委員 C

地域での雇用を進めていきたい。

自分の会社では、まだ障害者雇用は行っていないが、会を通じて少し不安が軽減されてきた。

学校を卒業後、社会への移行についてたくさんの支援が行われていると言う事が知れて良かった。

委員 D

事業所参観日は、毎年参加させてもらっている。年々、いい形になってきているように感じる。
子どもたちが「働く意味」や「働く価値」について感じられるような取組を、学校でがんばってもらいたい。

委員 E

地域との連携がしっかりとできている学校だと思う。
いい取組をたくさんしているので、もう少し地域にアピールできれば。
「学校と地域のがんばり」をもっと知ってもらえるようにしていきたい。

委員 F

ここ数年コロナの影響で十分にできていないが、学校としっかり連携をして、卒業生の定着支援をがんばっていききたい。
また、実習先の開拓についても手伝っていききたい。
学校だけでなく、家庭でも、子どもたちにしっかりと「お手伝い」をさせていくことが、「働く意味」の涵養につながっていくと思う。

委員 G

コロナの影響は大きく、困窮や虐待の事例が増えている。学校や地域に対して「困難さ」を訴えることができていない家庭も多い。こうした家庭に対して、学校や地域が早い内にフォローに入ること、少しでも生活に困る家庭が少なくなるようにしていきたい。

委員 H

センターの活動が、まだまだ十分に認知されていないと感じている。
学校と一緒に地域活動を進めていくことで認知を図り、センターに気軽に足を向けてもらえるようにしていきたい。
また、児童生徒の卒業後の生活を見越して、在学中からしっかりとつながりを作っていきたい。

委員 I

学校見学をさせてもらったが、交流についての可能性を感じた。
まずは、小学部児童に学校へ遊びにきてもらうことをひとつのきっかけとしたい。

委員 J

交流ができていないが、今後前向きに検討していきたい。お互いの生徒が気軽に行き来できるような関係にしていきたい。
真備中の生徒は、本日より職場体験に出ている。地域の協力を感謝している。また、地域貢献活動もがんばっていききたい。

閉会あいさつ（本校学校運営協議会会長 中山様）

今年度の中間まとめについて、ありがとうございました。
前半期の取組についての課題もはっきりしたと思うので、後半期に向けて、各班での取組をお願いします。
伴走型で、児童生徒に寄り添いながらお願いします。